

町長2期目の抱負と来年度 予算編成の重要性について

町長／今やるべきものを検討する



永田 和彦議員

町政を問う

一般質問
9 議員

無投票当選されインタビュに「厳しいときこそチャンス、今やるべき事業は基金を使ってでも実施する」と言われた。100年に1度と言われる未曾有の経済危機状況であり来年度は法人町

民税をはじめ町の収入はかなり落ち込むと考えられるとき、他は大変かも知れないが大津町は基金を多く持っているから大丈夫などと取られかねない。今求められているのは

緊急的な経済対策や、社会保障の充実や補てんと考えられる。
現在できるだけの情報収集をして分析し、来年度の予算編成に有効なる施策と配分を組み入れなければならぬと強く思う。また、それを担う有能な人材を配置しなければならぬ。
こういう時こそ役場は町民のよろず相談所でないければならない。

家入町長

住民の力をお借りしながら地方分権、住民自治を進展させるチャンスという思いの発言だ。

振興計画に基づいてまちおこし事業を推進しているが、国・県の補助事業だけではやっていけない問題もあり、将来の大津町に向かって今やるべきものはなんであるかを十分検討しながら基金の有効活用をお願いしたいと考えている。

経済対策として介護関係のサービス従業員や職員が不足している、兼業

農家における農作業の關係など、行政が若干の補助などできれば農家でつくる法人組織や事業所に對して人件費などある程度の補助もできると思う。18日に政策会議を開き、職員からのアンケートを採りながら対応を検討し、新年度予算に生かしていきたい。

教育と景気の関係について

教育長／生きる力を育んでいく

宮崎教育長

義務教育の中で子どもが教育を受ける権利と一緒に親が教育を受けさせる義務があるのと同じように、奨学金の場合でも、ただもうというよりも、勉強したいから借りて、そして自分が社会人になったときには借りたお金を返すというような貸

奨学金制度について、経済状況をきちんと認識され今までの制度に固執しないように柔軟な対応を求めたい。その為には各家庭経済事情をきちんと把握し困っておられる家庭には手を差し伸べることが出来る体制が必

要であり、あらゆる面の教育環境を悪化させてはならない。

景気が悪いとの理由で、子どもの将来を大人が作り上げた社会の犠牲にしないための対応をお聞きしたい。

与の制度で対応していけるのではなからうかと思っている。

景気悪化への教育の対応については、生きる力を育み、変化の激しい先行き不透明な厳しい時代を生き抜いていく素地、それを小中学校で身につけるような取り組みを今後進めていきたい。





新開 則明議員

中心市街地の整備と 南北道を問う

町長／国の補助事業を活用する

中心市街地の様々な整備と南北道の機能と産業の発展はどう考慮されているのか、来町者に大津町だと思えるシンボルは何が考えられるのか、宿場町としてのイメージはどのように考慮されているのか伺う。



町のシンボルとして繁栄を

振興総合計画に基づき、まちづくり交付金事業で推進している。地域の開発もそれぞれのゾーンを計画していきたい。

中山土木部長

まちづくり交流センターを中央バス停前に考えている。南北道路も一体的に整備していく。町のシンボルは、上井手・下井手・唐芋・ツツジ・バイク等が考えられる。宿場町のイメージは塘町筋を生かし各地に点在している歴史資産を含めた回遊ゾーンを検討する。

町民のインフルエンザに対する過年度の予防接種への対応と現在の状況はどうなっているのか。新型インフルエンザに対する対策はどのように考慮されているのか、飼育されている鳥獣のデータとインフルエンザの予防や注意点はどのように周知されているのか。

インフルエンザ 対策を問う

町長／予防接種が必要

町内では養鶏農家4戸で6万2700羽。チャボ・キジ・アヒル等234戸で2965羽となっている。

西本経済部長

しながら町の行動計画を策定していきたい。

家入町長

日ごろの予防とインフルエンザの予防接種が大切である。

中尾健康福祉課長

平成19年度は65歳以上が3081人、3歳以上就学前までが1182人接種された。町民のインフルエンザに対する意識は向上している。今後補助内容を検討したい。新型インフルエンザに対しては国・県の動向を確認しながら町の行動計画を策定していきたい。

町有の森林原野 を問う

町長／環境保全協定を結ぶ



高尾野森林公園案内板

家入町長

町有林関連の利活用は十分検討し、瀬田裏原野は牧野組合との環境保全協定を結びすばらしい水をお願いする。

西本経済部長

森林収入は11年度は11562万円、18年度は1366万円である。高尾野森林公園が自然観察園に最適のよう利用促進を図っていきたい。



マスクをかけたバンビ（庭園用）

森林・原野の管理と活用状況はどう行われているのか。森林の一部（2〜3町歩）に多種の樹木を植え、樹木の知識を学ぶ樹木観察公園は考えられないか、瀬田裏原野の今後の対策と植栽可能な範囲に杉・檜以外の銘木種の植栽は考えられないか。



長谷部健一郎議員

商工業の 支援について問う

町長／経営安定の支援

昨今アメリカのサブプライムローンに端を発し、世界的金融危機となり、我が国も、甚大な被害を被っているが、大津町の企業経営者も資金繰りに困窮している。そこで緊急対策として、現在実施している利子補給制度を見直して、設備プラス金融支援の方策として運転資金の上限1000万円

の利子補給をしてはどうか。

家入町長

中小企業支援について、10月31日から、緊急保障制度が始まっている。中小企業庁や金融庁、金融機関に対して中小企業への円滑な資金提供がなされている。町では平成10年から3年間を時限法として実施した。どのような形で町おこしが商業の活性につながるか十分検討する。

雇用対策については、報道機関等で各企業の大幅な下方修正の見直しがあっている。大変な時代になってきた。地元も本

田熊本製作所をはじめとして世界的シェアを誇る企業もたくさん立地している。企業の不振は、即座に人件費の削減が考え



雇用対策事業

雇用対策について問う

町長／企業・商店街・農協と連携して

られる。働く方々の解雇、あるいは雇用の内定取消しなど、リストラされ職を失うようなことで、明日の生活ができなくなる、非常に大変な問題である、支援策をどのように採られるのか。

家入町長

企業誘致は企業との関係、商工観光の係は商店街関係、農政は農協関係で事情聴取を行ってその中で困ったことは、今後支援対策を考えていく。施策については、新年度予算で上げていけるようなものは上げる。企業と十分相談をしながら連携を取り農協を始め社会福祉法人関係機関とも支援が何ができるか考える。



活きいき商店街事業

活きいき商店街 事業について問う

町長／新たな産業おこしで検討

商店会のエリア部分の不足業種として商店会が申請をし支援を受けている。商店会のない地域、例えば大津駅通りやジャスコ周辺では補助助成が受けられない。魅力ある商店街づくりを推進するためにも、制度の対象枠

を広げていただきたい。又本年度まで、となっている地域の活性化事業を継続していただきたい。

家入町長

その地域においてどういう事業をつくった方がその活性になるのか十分考えなくてはならない。体験をしながら事業をする新たな産業あるいは町おこしにつなげたい。今後利子補給以外に変わったものを考えなくてはならない。解雇された若者が店を出すとか、いろいろな形の支援は必要。町全体の流れの中でどのような商店街をつくるかが、将来の大津町を造っていくためには一番大切ではないかと思う。

新たな商業はジャスコ周辺地域に一番必要である。桜町通りにはそういった食事関係ゾーン。こちらは歴史文化の香りの高いものをつくることによって、新たな産業おこしにつながり、お客様がやってくると思う。担当課と十分検討したい。

高齢者のために

公園に健康遊具を

町長／高齢者の公園利用、健康増進のために検討していく

大津町は、町のキャッチフレーズを「元気 大津」としている。毎年増加する要介護者の数、メタボリックシンドロームに代表される成人病による要介護者や予備軍と呼ばれる人達。15年後、20年後に団塊の世代の皆さんが後期高齢者と呼ばれ

る。①その時のために、町はどのような手を打っていくのか。②高齢者のために公園に健康遊具を設置する自治体が、全国的に増えているが、取り組む考えはないか。③大津町にある100近い公園の活用について問う。

ニング及び栄養指導、口腔ケア等の指導を行っている。今後は、高齢者のニーズを把握し、介護給付の適正化を図りたい。

公園に於ける健康遊具の設置については、現在、高齢者の健康維持が課題となっており、介護予防、医療費の抑制などを考えると、対策の一つになると思われる。今回購入予定のアルコール工場跡地の敷地東側に子育て健康広場を計画しているののでここに子どもから高齢者まで利用できる健康遊具の設置が可能か検討する。現在ある公園の子ども用遊具の取り替えの時期には、高齢者の健康増進のために健康遊具の設置を検討していきたい。

家入町長

町では地域包括センターにおいて、要介護状態になることを予防するとともに、なった場合も可能な限り地域で自立した日常生活を営むことが

できるよう支援している。又ふれあい型ミニデイスービスや3B体操を実施している。特定高齢者については、筋力トレー



月尾純一郎議員



かぶと虫公園

健康づくりにラジオ体操の取り組みを

町長／町を挙げて健康増進に取り組む必要がある

メタボリックシンドローム解消の手段としてラジオ体操が注目されている。健康づくりの一環として取り組んでいく考えはないか。軽い運動と思われるがちなラジオ体操も第一第二をきちんと行えばかなりの運動量となる。26種類の動きで構成され約400の全身の筋

肉のほとんどを使う。人間に必要な運動要素をすべて含みラジオ体操を続けると歩くことが苦にならなくなる。このラジオ体操を大津町の運動として、町民の健康づくりとして、そして医療費の削減のために取り組んでいく考えはないか。

家入町長

ラジオ体操は、国民の体力向上と健康の保持や増進を目的として作られたもの。又日本で広く普及している太極拳は、中国体育委員会が健康法として制定したものであり介護予防に有効的である。健康日本一の取り組みについては、町の医療費が県の平均より高い状況にあり、町を挙げて健康増進に取り組む必要がある。



小学校の子ども会や各種スポーツ大会でもラジオ体操が実施されなくなっている。菊池圏域リハビリテーション支援センターでは、高齢者の体力アップを目的として、長寿菊ちゃん体操及び虚弱高齢者向けのイスに座ってできるきくちゃん体操が考案された。ラジオ体操については、まずは足下からということで役場の職員から朝の就業前にできないか検討していきたい。町民の皆さんにも情報を提供しながら、それぞれの立場で頑張っていたきたい。

家入町長

道路行政については2

期目21年度は世界不況の中、大変厳しい財政であ



完成が待たれる
県道西鶴中井迫線



J R から提供申し出があった
美咲野団地東側用地

家入町長 大津小学校は、平成22年度過大校になる見通しから一時美咲野交差点北側に建設場所が検討されてきたが、J R 美咲野開発事業主体様から土地4・5 haを無償提供の申し出があり、再度、建設場所を検討している。今までの例からすると、建設し開校まで、4、5年は要する。また建設予算は17億円から20億円位かと思われる。

家入町長 地方裁判所で行われる刑事事件の裁判で、殺人傷害致死など重い事件で有罪か無罪か。また有罪の場合は量刑はどうかを決めるというもの。裁判の進み方やその内容に国民の視点や感覚が反映され、裁判全体に対する国民の理解が深まり、司法への信頼度が高まると期待される。町では住民基本台帳電算システムの改修を行い、広報誌で仕組について紹介している。

家入町長は当選の弁で「元氣な大津町、現状にあぐらをかくことなく、さらに次の一步を踏み出す責務を感じている。これからの4年間町職員、住民と共に知恵を出し汗をかき町発展のためがんばる」と決意を述べている。

2期目の4年間は、スピード感ある実行力あるリーダーシップを発揮し町の発展に頑張ってもらいたい。課題は山積している。西岡町政から始まった、大津駅前案善線、美咲野団地から西鶴中井迫線ルート、57号線の四車線化、大津立野間は、もう少しのところなかなか思う様に進まない。国・県に対し強く働きかけてもらいたい。また325号線の三吉原交差点は通勤時には相当渋滞する。本田技研前の交差点もひどいとの事、今後どの様に取り組んでいくのか進捗状況を聞きたい。



安永美智男議員

家入町政2期目の 出発にあたって

町長／道路網の整備に力を入れる

るが精一杯がんばっている

きたい。特に57号線四車線化は期成会の会長を仰せつかつており、国・県に強く働きかけていく。幸いにも58億円もの基金があり、これを前向きに利用していきたい。道路網の整備は特に力を入れて解決していく。

大津小学校分離 について

町長／建設場所を検討中

平成18年度から大津町立小中学校通学区域及び教育施設検討委員会が設置され慎重審議を重ね、J R 美咲野団地開発事業主体からありがたくも一等地の環境の良い広大な土地を無償で提供され、ようやく建設場所が概ね決定する運びとなるようである。

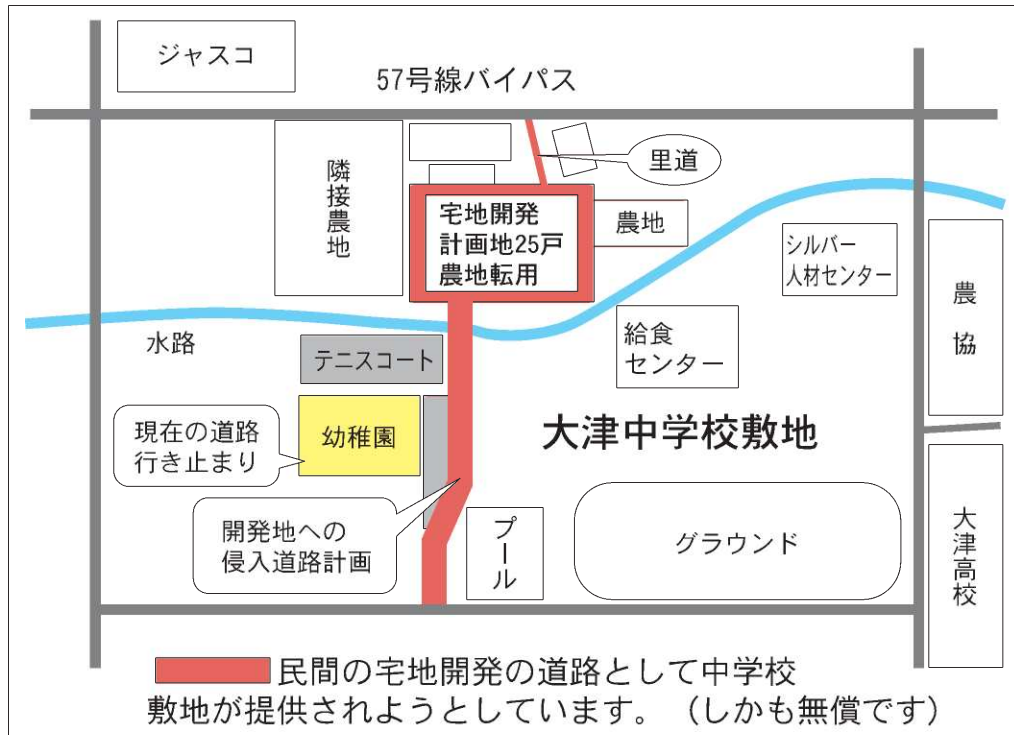
来年5月から開始される裁判員制度について、大津町へ48名の方に要請があっていると聞いていますが、司法改革の第一歩との事、町当局の対応を問う。

裁判員制度 について

町長／広報誌で紹介している



荒木 俊彦議員



個人の宅地開発利益のために学校敷地を提供（無償）していいのか

教育長／中学校の敷地は余裕があり、保護者の同意は必要ない町長／バイパスからの道路が地権者どうしでまとまらなかった

大津中学校

北側に隣接する農地の宅地開発が進められている。宅地開発はけっこうだが、民間宅地開発のため中学校の敷地を提供しているのか。大津中・幼稚園・テニスコートは、まとまった教育施設であり、町の勝手で分断することは許されない。保護者や生徒に説明し、同意がないかぎり、無法計画は撤回すべきである。

宮崎教育長

大津中学校は敷地に余裕があり、学校用地を町道に変えるだけで問題はない。中学校や幼稚園の保護者の同意は法的にも必要ない。

教育委員会も異論なく承認した。説明はしてもいいが、同意は必要ないと考えている。

家入町長

教育委員会が学校とも相談し、了解をもらっている。バイパス側から里道の拡張については、地権者どうしの話が見つからないため、中学校側から道路が必要と判断した。話の順序が逆かもしれないが一つの方法だ。

中学生まで医療費無料化を・高い保育料の引き下げが必要

町長／検討はするが、財政が厳しい

①中学生まで医療費の無料化拡大を。

②町の保育料は、熊本市や阿蘇市と比較して非常に高い。若者世帯のくらしが大変な時、高い保育料は引き下げるべき。

家入町長

①財政状況を見ながら検討する。
②生活が厳しいのは認識しているが、引き下げは考えていない。

国保会計の黒字分は値下げすべきだ

町長／値下げする考えはない

国民健康保険の財政は1億〜2億円の黒字が出ている。菊陽町は大幅に国保税を引き下げた。少なくとも黒字分を値下げすべきだ。

家入町長

19年度の実質黒字は約1億円あるが、財政が厳しい。納税相談を進めながら減免措置を行う。



鈴木ムツヨ議員

教育行政を問う

教育長／中学校の予算は検討する

① 学校司書（非常勤職員）の勤務時間の延長が必要
非常勤職員は一日6時間勤務で午後3時頃には帰られる。子どもは放課後図書室で談笑したり本を借りたりと楽しみなの

① 非常勤職員は常勤職員
の勤務時間の3／4以内
となっている。

家入町長

に3時以降は本の貸し出しが出来ないのは子どもの楽しみを奪っているのではないか。
② 学校評議員制度の運用についての指示、指導と学校長への指導対応はどうか。
③ 学校評議員の学校での役割と成果は。
④ 学校裏サイト（ネットいじめ）の現状把握と対策は。
⑤ 学校内での携帯電話の使用はどうか。
⑥ 不登校生・児の現状と対策は。
⑦ 学校での消耗品費の金額は何の基準で決められ、妥当な金額か。
約4年前の私の質問で他町に比べ教育予算が少ない事が判明した。どう改善されたのか。
⑧ 学校での環境教育について。
⑨ 学校の図書館運営協議会と学校運営協議会は設置されているか。

宮崎教育長
① 児童生徒が学校図書館を利用できないことがないよう指導していく。
② ③ 全小中学校で28人を委嘱。年3、4回の会議。学校の経営方針や児童生徒の健全育成のための連携等意見交換。
④ 小学校は0。中学校は4件。全校集会等実施し解決。携帯電話の学校内持込は不許可。
⑤ 小学生1人。中学生22人。10月末時点で。欠席者に対して1日目は電話連絡。2日目家庭訪問。3日目校内不登校対策委員会で検討。
⑥ 小学校は19年に329万円ほど増加し菊陽町より上回る。中学校は菊陽より1人当り2000円位少ない。検討する。
⑦ 総合的な学習時間を中心に取り組んでいる。
⑧ 図書館運営協議会は設置していない。図書館運営委員会を設置している。学校運営協議会は設置しない。



北中・第9回鞍岳遠歩登山

保険証のない18歳以下の子どもへの対策は

町長／法の一部改正が成立

大津町では12歳迄医療費が無料。しかし国民健康保険の保険料の滞納者は保険証を返還し被保険者資格証明書が交付される。離婚後300日以内に生まれた子どもは前夫の子どもと見なすとした規定により母親が出生届を出さず、無戸籍となる事例もある。この子ども達の医療への対策はどうなっているか。

家入町長

15歳以下の資格証明書については今国会で一律に保険証を交付するよう法の一部改正が成立する見込み。この規定に基づき保険証の交付を行う。20年度の資格証の発行世帯は66世帯で18歳以下の子どもがいる世帯は0。無戸籍の方は該当無し。

国民健康保険被保険者資格証明書

交付年月日	有効期限
記号	資
住所	番号
世帯主氏名	性別
生年月日	

国保資格証明書

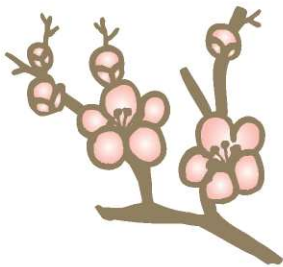
大津町表彰規則の改善

町長／検討する

大津町の表彰規則では「大津町の地方自治を振興することに顕著な功績があった人を表彰する」となっている。

ところが、現状を見てみると、職員、特別職員及び消防団員で長期勤務を理由にした表彰がほとんどである。規定によれば、(1)職務上の成績が抜群で他の職員の模範となる職員

(2)社会に対する善良な行為により、町民から感謝と信頼を受けた者



職員と十分相談しながら表彰のあり方を検討する。

家入町長

などの規定もある。本来こちらの方が表彰の主旨に合致しているのではないのか。大津町の広報紙が県広報コンクールでグラプリを受けたり、大津町のホームページが全国広報コンクールで総務大臣賞を受賞した。どうしても担当者なり関係者を表彰しないのか。町民の視点から改善すべきではないか。



坂本 典光議員

県道の改修

町長／完成するまでフォローする



自治功労者表彰式（本会議場）

以前、法務局から中町に通じる道路（当時県道）が荒れており、トラックが通るたびに振動が大きい。何とかしてくれとの住民からの要望があった。県道ではあるが、町の建設課に打ち上げ、私も県事務所に出向いて交渉した経験がある。次年度に整備されたが今回も同じような問題である。県道瀬田竜田線の下町交差点から少し東に行った箇所で振動が激しく、以前から打ち上げているが改善されないとの苦情が

あった。

(1) 現状を認識しているか。
(2) 県道であるが、町として県に対してどのような手順で調査・改善を要望するのか。

家入町長

県道の苦情については通報があれば随時現地調査を行い、県への連絡、改善要望をすることになっている。今回の件は町の方に要望がうまく伝わっていないかった。

現地調査の結果、施工部分に段差が生じていると思われる。これが原因で大型車のトラックが通行した際に音が生じていると思われる。

県につないで円滑な対応が図られるよう努める。また修理が完成するまでフォローする。



下町県道



手嶋 靖隆議員

これからは、高齢化、少子化という深刻な質の違いが表面化し、自治体の行政目標は、地域社会を構成する人口、年齢構成の上に立って施設内容も必然的に変わるものと

少子・高齢化への対応は

町長／地域福祉モデル事業を広げたい

思われる。

少子高齢化は、将来の社会保障制度に重大な影響を与えることは必至である。また少子化は生産年齢人口の減少による、今後の行財政の運営に及ぼす影響は必至であり、自治体として長期展望に立って対応、方策を考えるべきだ。同時に、高齢化社会を迎え、複雑多様化する老人の意識に対応するため、何が必要で、何が必要でないのか、その活動の何をなすべきか、財源はどれだけかかるの

かなど、地方分権を迎え老人意識にマッチした実動性ある計画の見直しを行うべきであり、今後どのような考えで取り組まれるのか聞きたい。

家入町長

平成21年度から3ヶ年の第四期大津町老人保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定している。これまでの事業の精査を行い、的確な住民ニーズを把握するとともに、関係各課、関係機関と連携しながら計画を策定し、



町中にオープンした老人介護施設

都市計画マスタープランの中に景観、緑地、公園、道路などの公共空間の整備を強調されている。公園は町民の生活に潤いと安らぎを与え、レクリエーション、イベントを通じ、区民との交流の場でもある。子どもの安全

な遊び場の提供、高齢者のグランドゴルフ親睦の場として多目的な運動をやることと同時に防災的な避難場所として地域にはなくてはならないと思うが明確なる進捗がないようだが今後どう計画されているのか。

遊休地の運動公園の計画は

町長／現状で利活用していく

家入町長

若草学園跡地の遊休地については地方法務局の大津出張所の移転地として1500㎡の用地を測量関係等で今話を進めている。その残りの西側、南側については、どうするかは検討しているところだが、当面は現状のまま利用、活用していたければと思う。

高齢者の方に必要とする事業を実施していきたい。高齢者対策は、地域の協力が必要であり福祉サービスを必要とする地域住民が自ら主体的にかかわり、地域福祉を推進することを目的とし、地域福祉計画のモデル事業を5地区で取り組んでいる。将来的には大津町全域にこの地域福祉計画を拡大していきたい。



若草学園跡地